

学生の声に対する感想や意見をお寄せください。紙面に掲載する場合があります。〒960-8602 福島民報社地域交流部。アクセスは024(531)4117、メールはchiki@fukushima-minpo.co.jp(住所電話番号を記してください)

島田先生 卒業研究の課題を決める準備として、子どもの運動発達や体育に関する身近な問題を考えてみよう。身の回りで何か気付いたことはないか。

佐藤 実習先のこども園では、自由遊びの時間に子どもたちが保育室でままごとや積み木などの遊びをしていることが多くて、少し違和感があった。僕たちが園児の頃は、外で鬼ごっこをしたり遊具で遊んだりしていたから。

栗原 ボランティア先の学童クラブは逆で、みんな外遊びが大好き。時間さえあれば外で鬼ごっこや縄跳びをしている。

島田先生 その差はどこにあるのだろうか。

鈴木 幼児は遊び方をあまり知らないから、先生に教えてもらったことに夢中になるのではないかと。素直な分だけ、先生の影響が強いのかも。

佐藤 確かに実習先でも先生が「外で遊ぼう」と言った時は、みんな喜んで園庭に出て行った気がする。

島田先生 保育者の言葉掛けは大事。それに、今は幼児の遊び場に見守る大人の存在が欠かせないから、家族や地

域の影響もあるだろう。栗原君が通っている学童クラブはどんなところかな。

栗原 小学校の施設を利用しているので、校庭でみんな自由に遊んでいる。

鈴木 環境は大事だね。子どもが自由に安心して遊べる場所は、あまりない気がする。最近は町の公園でさえ、小さな子どもの姿を見ることが少ない。

子どもの発達



基本的動作が危ない

福祉学部こども学科
写真右から鈴木啓太さん、佐藤勢司さん、栗原知寛さん、島田貴広准教授(学生はいずれも3年)

島田先生 子どもの体力低下や肥満傾向といった調査結果は当然かな。今、新たな問題となっているのが子どもの「基本的動作」だ。走、跳、投など7つの動きに関する調査で、2007年の5歳児の獲得状況は1985年調査時の3歳児レベルにまで低下しているという報告がある。日本学術会議が昨年7月に「子どもの動きの健全な育成をめざし

て～基本的動作が危ない～」という提言を文部科学省とスポーツ庁に行った。子どもが適切な動きを獲得する機会を得られるよう、教育制度を充実させ、「子どもの動きの質」に関する調査研究を推進すべきといった内容だ。この基本的動作の問題は、体力低下や肥満傾向だけでなく、運動嫌いや運動離れにもつながっているかもしれないね。卒業研究の材料は結構豊富にあることが分かったね。何か興味を持った内容はあるかな。

鈴木 東日本大震災の影響も含めて、保護者の意識が子どもの運動発達にどう影響するかに興味がある。

佐藤 未熟な基本的動作があると、その後の運動学習にどう影響があるか研究してみたい。

栗原 外遊びや鬼ごっこの運動効果を考えていたところだった。

島田先生 文部科学省の「幼児期運動指針」には、外遊びは運動能力だけでなく、知的な発達にも効果的であると述べられている。幼児期に身につけておくべき基本動作も示されているので、この指針はよく読んでおいてほしい。 二次回は6月第4週に掲載予定